



# 中学自己表現力コンテスト

## ～ありのままの自分を表現するという こと～

広島工業大学附属中学校  
教諭 玉木 淑恵

人はみな、「表現したい!」という欲求を持っている。身体を動かすことで、奏で歌うことで、描き、書くことで、そして、話すことで…。どんな手段であれ、表現する喜びを知っている人は心豊かでたくましい。ありのままの自分でいられるからであろう。そこで得られた自信が次のステップにつながり、ますます豊かに活動できる。

本校では、「自己表現力コンテスト」と題し、全校生徒の前で自分の体験や考えを言葉で表現する場を、年度末2月に設けている。その内容と生徒の学びをここに紹介したい。

### 目的とプログラム

会場は大学4号館208号教室。「伝える」側の発表者と「その考えを共有し、共に考える」側の聞き手との意見交換の場であるという認識のもと、以下のように目的を設定している。

- ①大勢の人の前で自分の体験や意見を発表することにより、的確に表現する力を身につけ、伝える喜びを知る。
- ②仲間の発表を聞いて、自分の考えを深めるとともに自己表現力を高める契機とする。

また、グローバル時代に欠かせないコミュニケーション能力を身につける場であるとも考えている。

プログラムは3部構成で、以下の通りである。

- 第1部: 弁論の部(国語科)
- 第2部: レシテーション・スピーチの部(英語科)
- 第3部: プレゼンテーションの部  
科学研究発表(理科)  
仕事ウォッチング報告(人間科)  
けん玉披露(日本一の技)

第1・2部は各クラスの代表1～2名が発表し審査を受ける。



弁論の部で最優秀賞に輝いた中学3年生

### 発表内容

#### 【弁論の部】

「マスコミの報道—ドンキホーテの放火から」「巨人ファンはカープファンになれ」「野球との出会い」「天才がくれた言葉」「幸せになれる条件」「自分らしく」「ありがとう」「太鼓叩きへの道」などの題目からも分かるが、自分の内面に目を向けた話題が多かった。それだけに、聞き手も共感などを覚えながら、共に考えることができたようだ。また、報道に対する問題提起などもあり、自分の主張を自分の言葉で伝えるかっこよい発表であった。

#### 【聞き手の感想紹介】

- ◇太鼓叩きという少し変わっていて、しかもなれるかわからない夢を堂々と話している姿がかっこいいと思った。自分と重なるものがあった。
- ◇人間関係は中学生になってからは特に大変だと思っていました。だから、私だけでなく他の人もいろいろ悩んでいるんだと共感しました。
- ◇「自分が一番であるという安心感がほしい」という主張にとっても共感しました。自分との葛藤の様子もとても綺麗に描写されていてとても感銘度、完成度共に高い発表でした。
- ◇私も同じように、やりたいことも趣味というものもなかった。同じように将来のことも悩んでいたのととても共感できた。この発表を聞いて、これからゆっくりと見つけていけばいいんだと少し安心した。
- ◇いつも幸せでいよう。幸せでいられるようにしよう、と思うその発想が凄いなと思った。苦しいことがあっても幸せになろうという考えに感心した。現実逃避しているように見えるかもしれないが、時には逃げることも必要だと思う。いつも現実に向かっているのは苦しいだけだろうから。

#### 【レシテーション・スピーチの部】

レシテーションは決められた英文を暗誦して発表するという内容であるが、その内容を理解し、自分の言葉で表現するという面白さがある。発表者によって、それぞれ表現に違いがあ

り、聞き手も楽しめたようである。

3年生は、英語で自分の考えを伝えるスピーチをする。メッセージがあるため、聞き手に与える感銘度も高い。「My Dream」「Harry Potter」「My School Life」「My Robos」と今年は身近な話題が多かった。

#### 【プレゼンテーションの部】

「全校生徒の前で発表するにふさわしいもの」という観点で、出場者を募ったところ、理科から科学研究発表「シャボン玉の研究」、人間科から仕事ウォッチングの報告、そして、中1学年からけん玉披露をしてもらうことになった。映像を取り入れるなど、第1・2部とは異なった発表形式で、表現の幅も広がった。

### 出場者の感想

前に出てしゃべっている時、**すごく気持ちよかった**です。みんなが自分を見て聴いてくれているのです。その分、自分も応えようと積極的になって、そうしたらちゃんと反応として返ってくるのです。そのや

りとりがすごく楽しくて、**とても素直になれた感じでした**。もっと自分を見てほしい!という気持ちです。そしてその快感を覚えたらもう1回やってみたくなったのだからよくわからないのですが、その素直さがクラブの演奏面にも出てきたんです。ただ叩くだけでなく、**自分の音を相手の耳にまで持っていく感じ**。それが自分にとっての**自然なスタイル**なんだって実感しました。(弁論の部3年)

私がクラス代表に決まった時は、本当にちゃんと出来るのか不安でした。練習が始まってからも、練習は厳しく、先生のような発音・なめらかな言い方・動作のつけ方などなかなか思うように出来ませんでした。それでも何度も練習を繰り返しました。どうせコンテストにでるのなら、よい結果を残したかったからです。

コンテストを終えて思ったことは2つあります。1つ目は、**努力すればやっただけ成果が出る**ということです。2つ目は、**英語は面白い**ということです。以前から英語は好きでしたが、今回の経験で、**伝えることの面白さ**を感じるようになりました。「伝えよう」という気持ちで練習するにつれ、その英文が生きてくるのです。もっと英語を勉強して、英語を**「自分の言葉」**として使いこなせるようになりたいです。(レシテーションの部2年)

レシテーションコンテストの出場に立候補したのは、1つは洋楽、英語が好きだったのと、前の年に中3の先輩が司会をしているのを見て、**かっこいい**と思い、自分も金賞をとってあんなふうに来年司会をしたいと思ったからです。発音には自信はあったものの、物語をその場で伝えるというのはとても難しく、単語の強調やスピード、ジェスチャーなどについては最後まで課題が残りました。本番では、ミスは自分のせいだし、その場の雰囲気自分で作っていかなければならない。これは、本番を終えて実感したことでした。しかし、**達成感**はありました。結果はよくなかったけど、次への課題となりました。中3では、自分の考えた文章で思いを伝え切れることを目標に**再チャレンジ**したいです。(レシテーションの部2年)

### 「ありのままの自分」を表現するという こと...

発表後、本気で取り組んだ出場者の表情はどれもすがすがしい。「気持ちよかった!」と言えた生徒は一度むけ、次のステップに向かう。「伝える喜び」を知った生徒は毎年大きく成長する。出場した生徒は他の行事にも積極的にかかわろうとする。時には、何でも英語で表現し始める生徒もいた。また、コンテストで平和の大切さを主張した生徒は、それをより多くの人に知ってもらいたいという思いから、今年、ニュージーランドの留学生へのガイドに立候補した。いずれも、この中学自己表現力コンテストで自己を見つめ、物事を追究し、それを表現できた生徒たちばかりである。

もちろん、伝える内容を追究しきれず、ありのままの自分をうまく表現できなかった生徒たちもいるが、大勢の人の前で発表するという場を踏むことにより、何が足りなかったかに気づくようである。

本校では、「表現し、共有すること」を、教科や学年行事などの日常の場で意識的に組み入れており、自己表現力コンテストの背景に、このような日常の営みがあることを書き添えておきたい。

今年も多くの新一年生が入学して来た。どんな手段であれ、ありのままの自分を表現することの喜びを知り、自信を持って、自分の歩む道を切り拓いてほしい。

英語スピーチの部での発表

前年度のレシテーションの部で金賞に輝いた生徒による司会